

事業報告

平成二十六年・二十七年研究會報告

法学研究所

刑事法研究会

(第一回例会)

- 一、平成二十七年二月二十六日(木)午後六時から
- 一、法学部(本館)一七一講堂
- 一、テーマ及び報告者

刑事司法における検察官の役割

大学院法務研究科客員教授 加藤 康榮

(第二回例会)

- 一、平成二十七年三月十九日(木)午後五時から
 - 一、法学部(本館)一九一講堂
 - 一、テーマ及び報告者
- 大正十二年、競馬法の制定

— いわゆる馬券の合法化をめぐる問題 —

非常勤講師 末澤 国彦

(第三回例会)

- 一、平成二十七年四月二十三日(木)午後四時から
- 一、法学部(本館)一七一講堂

事業報告

- 一、テーマ及び報告者

わが国における法益関係的錯誤説に対する疑問

准教授 野村 和彦

(第四回例会)

- 一、平成二十七年五月二十一日(木)午後六時から
- 一、法学部(本館)一九一講堂
- 一、テーマ及び報告者

『福島原発、裁かれないでいいのか』を補足する

教授 船山 泰範

(第五回例会)

- 一、平成二十七年六月二十五日(木)午後六時から
- 一、法学部(本館)一八一講堂
- 一、テーマ及び報告者

サイバー詐欺型犯罪と共謀認定との交錯

通信教育部インストラクター 原田 久直

(第六回例会)

- 一、平成二十七年十月二十四日(土)午後四時三十分から
- 一、法学部(本館)一七一講堂
- 一、テーマ及び報告者

振り込め詐欺への官民協働の現状について

教授 尾田 清貴

(第七回例会)

一、平成二十七年十一月十四日(土)午後四時三十分から

一、法学部(本館)一七一講堂

一、テーマ及び報告者

(判例研究)

東京高判平成二十六年七月二十五日について

法学研究科大学院生 外塚 果林

(第八回例会)

一、平成二十七年十二月十二日(土)午後四時三十分から

一、法学部(本館)一七一講堂

一、テーマ及び報告者

特別背任罪の共同正犯について

—福岡高判平成二十一年四月十日高等裁判所刑事裁判速

報集(平二十)二八四頁を素材として—

教授 設楽 裕文

民法法研究会**(第一回例会)**

一、平成二十七年七月二十五日(土)午後二時から

一、法学部(四号館)第四会議室

一、テーマ及び報告者

①中国における契約締結上の過失責任について

北陸大学未来創造学部准教授 胡 光輝

②金銭の担保化の担保法的構造

—敷金関係を中心に—

教授 清水 恵介

商事法研究会**(第一回例会)**

一、平成二十七年二月二十八日(土)午後二時から

一、法学部(四号館)第四会議室

一、テーマ及び報告者

①(判例研究)

金融商品取引法二一条の二第二項の推定損害額につき、

同条四項または五項による減額をすべきであるとした

事例(最三小判平成二十四年十二月二十一日・裁判集

民事二四二号九一頁、判夕一三八六号一六九頁)

新日本有限責任監査法人 堀野 裕子

②(判例研究)

シンジケートローンにおける借入人詐欺とアレン

ジャーの責任(東京地判平成二十五年十一月二十六

日・金判一四三三三号五一頁)

(第二回例会)

商学部助教 鬼頭 俊泰

一、平成二十七年四月二十五日(土)午後二時から

一、法学部(本館)第二会議室

一、テーマ及び報告者

①イギリスの上場会社における非業務執行取締役の役割

教授 大久保 拓也

②イギリス法におけるシンジケート・ローン

―日本との比較を手掛かりに―

商学部准教授 鬼頭 俊泰

(第三回例会)

一、平成二十七年四月二十七日(月)午後二時から

一、法学部(四号館)第四会議室

一、テーマ及び報告者

「商法(運送・海商関係)等の改正に関する中間試案」に関する意見募集」に対する意見

(第四回例会)

一、平成二十七年五月九日(土)午後二時から

一、法学部(本館)第二会議室

一、テーマ及び報告者

「商法(運送・海商関係)等の改正に関する中間試案」に関

(第五回例会)

する意見募集」に対する意見

一、平成二十七年六月二十七日(土)午後二時から

一、法学部(一〇号館)一〇六二講堂

一、テーマ及び報告者

①科学研究費基盤研究(C)「現代契約条項の法学・言語学的考察」

的考察―英文契約書との対比を通して―【研究代表者・教授 松嶋隆弘】(課題番号二六三三〇一三三)人的

資本と物的資本所得への課税と経済成長

教授 坂井 吉良

②譲渡制限株式の価格決定に関する一考察―東京地決平成

二十六年九月二十六日金判一四六三号四四頁を素材として

教授 松嶋 隆弘

経営法学研究会

(第一回例会)

一、平成二十七年四月十六日(木)午後四時三十分から

一、法学部(四号館)第四会議室

一、テーマ及び報告者

ヨーロッパにおける流通の問題とEU競争法の進展

マクダーモット ウイル&エメリー法律事務所

パートナー弁護士 ヴイルコ・ファン・ヴィールト

(第二回例会)

一、平成二十七年五月十六日(土)午後三時から

一、法学部(二号館)二二二講堂

一、テーマ及び報告者

近代立憲主義における人権と税の一考察

税理士 武石 鉄昭

(第三回例会)

一、平成二十七年六月十六日(火)午後四時三十分から

一、法学部(四号館)第四会議室

一、テーマ及び報告者

企業法務の課題と展望―国際カルテル問題への対応策

商事法務研究会・経営法友会幹事

元(株)ブリヂストン法務室/元法務室長 北 博行

(第四回例会)

一、平成二十七年六月二十日(土)午後三時から

一、法学部(二号館)二二二講堂

一、テーマ及び報告者

①自由と民主主義に基づく税法観と、新たな基本的人権の

あり方を前提とする税法等の基本的な問題について

元九州共立大学経済学部教授 弓削 忠史

②速報・最高裁(三小)平成二十七年五月二十六日判決より

正の期間制限をめぐる拙鑑定の紹介とともにも

教授 黒川 功

(第五回例会)

一、平成二十七年七月十六日(木)午後五時三十分から

一、法学部(四号館)第四会議室

一、テーマ及び報告者

経営法務とコンプライアンス体制の在り方

花王株式会社法務部コンプライアンス部門

法務課長 皆川 要

(第六回例会)

一、平成二十七年七月十八日(土)午後三時から

一、法学部(二号館)二二二講堂

一、テーマ及び報告者

日弁連が国税庁に提出した「税務調査手続き要件を回避する

税務行政に関する要望書」(二〇一五・二一・二〇)の分析

白鷗大学教授 石村 耕治

(第七回例会)

一、平成二十七年九月十九日(土)午後三時から

一、法学部(二号館)二二二講堂

一、テーマ及び報告者

①帳簿記載事項否認の要件

税理士 志岐 昭敏

②日経二輪車メーカーのASEAN進出と税務戦略

大東文化大学経営学部教授 高沢 修一

(第八回例会)

一、平成二十七年十月十七日(土)午後三時から

一、法学部(二号館)二二二講堂

一、テーマ及び報告者

①破産法による破産手続廃止決定と第二次納税義務

大東文化大学経営学部非常勤講師 本村 大輔

②マイナンバー制度の問題点

税理士 荒川 俊之

(第九回例会)

一、平成二十七年十一月二十一日(土)午後三時から

一、法学部(二号館)二二二講堂

一、テーマ及び報告者

①マイナンバー制度について

元読売新聞監査委員長・論説委員 高橋 利行

②財産権と納税義務について

税理士 境 鎮治

(第十回例会)

一、平成二十七年十二月十九日(土)午後三時から

一、法学部(二号館)二二二講堂

一、テーマ及び報告者

アメリカの立憲主義への税法学からの一考察

税理士 武石 鉄昭

保険法研究会

(第一回例会)

一、平成二十七年七月十一日(土)午後二時から

一、法学部(本館)第一会議室

一、テーマ及び報告者

①(判例研究)

東京電力福島第一原発事故「自死」事件判決に関する

一考察(福島地判平成二十六年八月二十六日・判時二

三三七号七八頁)

法学研究所研究員 川村 佑紀

②原子力災害に関する法制についての一考察「原子力災

害」に関するハード・ロー、ソフト・ロー、ケース・

ローの交錯を中心に」

教授 松嶋 隆弘

(第二回例会)

一、平成二十七年十一月二十一日(土)午後二時から

一、法学部(本館)第一会議室

一、テーマ及び報告者

① (判例研究)

不法行為により、被害者に後遺障害が残存した場合に
 おいて、労働者災害補償保険法に基づく保険給付や公
 的年金制度に基づく年金給付を受けた際に、各社会保
 険給付との間で損益相殺的な調整を行うべき損害(最
 判平成二十二年九月十三日・民集六四卷六号一六二六
 頁、判夕一三三七号九二頁)

助教 田中 夏樹

② (判例研究)

不法行為に基づく損害賠償と労災保険給付との損益相
 殺的な調整(最大判平成二十七年三月四日・民集六九
 卷二号一七八頁、金判一四六六号二四頁)

海上保安大学校海上警察学講座准教授 三木 千穂

(第三回例会)

一、平成二十八年一月三十日(土)午後二時から

一、法学部(四号館)第四会議室

一、テーマ及び報告者

① (判例研究)

保険契約者の放火について、保険契約者が自由な意思
 決定をすることができない状態で事故を生じさせたと
 いうことはできないとして、保険者の免責が認められ
 た事例(神戸地裁姫路支判平成二十六年八月二十日・
 判時二二五九号四八頁(控訴審)・大阪高判平成二十七
 年二月二十七日・判時二二五九号四六頁)

帝京大学法学部法律学科教授 松田 真治

② (判例研究)

精神障害中の自殺は認められないとして保険者の免責
 が認められた事例(仙台地判平成二十五年四月十七日
 判決(平成二十三年(ワ)第一〇三五号保険金請求事
 件・判例集未登載))

弁護士 勝野 義人

政経研究所

政治研究会

(第一回例会)

一、平成二十七年十一月二十六日(木)午後四時二十分から

一、法学部(二号館)二二三講堂

一、テーマ及び報告者

①ドイツ連邦議会議員のリクルートメントとプロモーション

上智大学外国語学部教授 河崎 健

②昭和初頭の選挙運動についての研究 選挙ポスターから

紡ぐ日本政治史

慶應義塾大学法学部教授 玉井 清

政治・経済合同研究会

(第一回例会)

一、平成二十七年七月九日(木)午後四時二十分から

一、法学部(図書館)L三〇二講堂

一、テーマ及び報告者

J・S・ミル『代議政治論』自筆草稿(日本大学法学部図書館所蔵)

教授 川又 祐

公共政策研究会

(第一回例会)

一、平成二十七年三月五日(木)午後四時から

一、法学部(十一号館)二階会議室

一、テーマ及び報告者

「政策過程の問題と課題」

教授 水戸 克典

(第二回例会)

一、平成二十七年七月九日(木)午後五時から

一、法学部(十一号館)二階会議室

一、テーマ及び報告者

「社会保障改革の現状と課題」

国際医療福祉大学大学院教授・国際医療福祉

総合研究所所長・一般財団法人医療介護福祉

政策研究フォーラム理事長 中村 秀一

(第三回例会)

一、平成二十七年十一月十二日(木)午後五時三十分から

一、法学部(本館)一八一講堂

一、テーマ及び報告者

消防行政の主な動向について

消防庁消防研究センター 渡辺 剛英

比較法研究所

英米法研究会私法部会

(第一回例会)

一、平成二十七年三月十日(火)午前十時四十分から

一、法学部(本館)一五一講堂

一、テーマ及び報告者

営業秘密保護強化に向けた法改正の動向

―各国比較をふまえて―

同志社大学法学部教授(元パナソニック法務部長)

齊藤 憲道

(第二回例会)

一、平成二十七年十一月十四日(土)午後二時から

一、法学部(二〇号館)一〇四一講堂

一、テーマ及び報告者

①科学研究費基盤研究(C)「現代契約条項の法学・言語学

的考察―英文契約書との対比を通して―」【研究代表

者・教授 松嶋隆弘】(課題番号二六三八〇一三三)イギ

リスにおける取締役の債権者に対する責任についての一

考察

大学院法務研究科助教 金澤 大祐

②科学研究費基盤研究(C)「現代契約条項の法学・言語学

的考察―英文契約書との対比を通して―」【研究代表

者・教授 松嶋隆弘】(課題番号二六三八〇一三三)イギ

リスの民事司法制度

教授 松嶋 隆弘

(※平成二十七年二月～平成二十八年一月末日現在)

平成二十六年・二十七年定期無料法律

相談会

平成二十六年・二十七年定期無料法律相談会は、校友弁

護士の協力を得て開催された。概要は左記のとおりである。定

期無料法律相談会の趣旨である地域社会との交流を図り、学生

達の法学の実践教育を行うという目的を達成することができた。

一、日時

【平成二十六年度】

(第七回)平成二十七年二月十四日(土)

(第八回)平成二十七年三月七日(土)

【平成二十七年年度】

(第一回) 平成二十七年五月十六日(土)

(第二回) 平成二十七年六月二十日(土)

(第三回) 平成二十七年九月二十六日(土)

(第四回) 平成二十七年十月二十四日(土)

(第五回) 平成二十七年十二月十二日(土)

※いずれも時間は、午後一時～午後三時

二、場所 法学部三号館

三、参加者(敬称略)

(専任教員)

岡島 芳伸・内山 忠明・清水 恵介・関 正晴

松嶋 隆弘

(校友弁護士)

大谷部雅典・川上 俊明・野中 英匡・長谷川武雄

松原 祥文・渡辺 孝・和田 光史

(補助学生)

参加教員担当ゼミナール学生 各回四名

四、相談件数・内容

①件数

五十六件

②内容

扶養、相続関係(遺言・遺産分割)

十三件

貸金 そのほかの債権回収

一件

事業報告

借地借家

三件

不法行為(名誉毀損・器物損壊など)

二件

近隣問題(道路・境界など)

六件

労働関係(従業員のトラブル・解雇など)

二件

家族関係(離婚・DVなど)

八件

借金、保証そのほかの金銭債務(含む破産)

二件

売買そのほかの契約関係

一件

その他(消費者問題など)

十八件

(※平成二十六年二月～平成二十七年一月末日現在)

平成二十七年特別巡回無料法律相談会

平成二十七年年度特別巡回無料法律相談会は、新潟県上越市の上越市市民プラザにおいて、市当局並びに地元の上越桜門会・校友弁護士等の協力を得て、平成二十七年七月五日(日)に開催された。

開催の概要は左記のとおりである。特別巡回無料法律相談会の趣旨である地域社会との交流を図り、学生達の法学の実践教育を行うという目的を達成することができた。

一、日時 平成二十七年七月五日(日)

午前十時三十分～午後三時

二、場所 新潟県上越市市民プラザ

三、参加者(敬称略)

(専任教職員)

池村 正道・清水 恵介・関 正晴・田中 夏樹

野中 貴弘・井出 真悟・中村 彰・戸塚 浩行

平塚 孝典・守塚 隆司・吉田 翼

(校友弁護士)

川上 俊明・入澤 武久・坂井 愛・平 裕介

安藤 豪・山際 悟郎

(補助学生)

参加教員担当ゼミナール学生等十六名

四、相談件数・内容

①件数

三十四件

②内容

賃金、そのほかの債権回収

二件

借地借家

四件

売買そのほかの契約関係

六件

家族関係(離婚・DVなど)

四件

扶養、相続関係(遺言・遺産分割)

八件

その他(近隣問題・交通事故・不法行為など)

十件

平成二十七年巡回無料法律相談会

平成二十七年巡回無料法律相談会は、静岡県三島市の日本大学国際関係学部短期大学部三島駅北口校舎において、市当局並びに地元校友会・校友弁護士等の協力を得て、平成二十七年十一月二十九日(日)に開催された。

開催の概要は左記のとおりである。巡回無料法律相談会の趣旨である地域社会との交流を図り、学生達の法学の実践教育を行うという目的を達成することができた。

一、日時 平成二十七年十一月二十九日(日)

午前十時三十分～午後三時

二、場所 静岡県三島市 日本大学国際関係学部短期大学部

三島駅北口校舎 七階

三、参加者(敬称略)

(専任教職員)

内山 忠明・清水 恵介・野中 貴弘・井出 真悟

中村 彰・戸塚 浩行・平塚 孝典・吉田 翼

(校友弁護士)

和田 光史・大谷部雅典・木下 淳一・坂井 愛

後藤 正治

(補助学生)

参加教員担当ゼミナール学生等十六名

四、相談件数・内容

①件数

二十四件

②内容

借地借家

二件

近隣問題(道路、境界、騒音など)

四件

家族関係(離婚・DVなど)

三件

扶養、相続関係(遺言・遺産分割)

九件

交通事故

二件

その他(借金・税務事件など)

四件

平成二十七年年度行政なんでも相談

平成二十七年年度行政なんでも相談は、法桜祭期間に合わせて開催された。概要は左記のとおりである。専門の相談員による行政相談に本学部の学生を陪席させ、行政相談を通じて日本の現代行政を理解する機会を提供し、そこにある問題点及びその解決方法を実感させるために実施した。

一、日時 平成二十七年十一月一日(日)～十一月三日(火)

※時間は、午前十時～午後三時(但し、三日は午前

のみ)

二、場所 法学部十号館二階 学生ホール

三、主催 日本大学法学部政経研究所

四、後援 東京行政相談委員協議会

五、協力 総務省東京行政評価事務所

六、相談員

東京行政相談委員協議会行政相談委員

総務省東京行政評価事務所行政相談官

七、補助学生 行政科研究室所属学生及び公募にて募集の法学部生

部生

八、相談項目

・マイナンバー制度について

・行政制度について

・道路の整備等について

・駐車・駐輪等について

等々

九、相談件数 二十七件

平成二十七年年度法律討論会

第三十八回法律討論会は、日本大学法学会と日本大学法曹会による共同開催、並びに日本大学法学部校友会と日本大学法学

部法学研究所の後援により、平成二十七年十月十七日(土)十二時三十分から法学部十号館一階一〇一一講堂において開催された。

(出題者)

河野 清孝裁判官

(審査員)

澤田 康広検察官・遠山 敦士裁判官

大塚 康貴検察官

(進行・時計)

能登 豊和弁護士・入澤 武久弁護士

◆問題(民法)

X(注文者)は、Y(請負人。一級建築士)との間で、X所有の土地上に、事務所用の建物(鉄筋コンクリート造。以下「本件ビル」という。)の建築を依頼し、設計施工の一括発注について、平成二十五年十月一日、その完成・引渡時期を平成二十六年十二月一日と定めて、次の内容の建築工事請負契約を締結した。

請負代金 一億円(工事開始前に一〇〇〇万円、平成二十六年五月三十一日に中間金二〇〇〇万円、完成・引渡時に七〇〇〇万円)

特約 契約が途中で終了したときは、出来形部分は注文

者の所有とする。

ところが、Yは、Xの承諾を得ないで、平成二十六年二月一日、Z(建築業者)との間で、本件ビルの基礎・躯体工事部分につき、完成・引渡時期を同年六月十五日、請負代金四〇〇〇万円を下請負契約を締結したが、同契約では、出来形部分の所有権帰属につき定めがなかった。

Yは、Xから前金一〇〇〇万円及び中間金二〇〇〇万円の支払を受けたが、平成二十六年六月三十日、資金繰りに窮して、事実上の倒産により建築業を廃業し、一方的に正当な理由なく本件ビルの建築工事の現場放棄をした。他方、Zは、Zが材料を提供し、既に基礎・躯体工事部分の施工を遂げ、同月十五日までに、これらの完成部分をYに引渡して、Yから下請工事代金の一部として二〇〇〇万円を受領していたが、残代金二〇〇〇万円が上記倒産時点でも未払であった。

Xにおいて、平成二十六年七月一日、直ちにYに対して工事督促の連絡を取ると、Yは、同年六月三十日時点で無資力状態に陥り、事業再開の見込みはなく、本件ビルの建築工事続行もYの過失により履行不能に至っていることが判明した。これによって、Xは、Yに対し、同日、その債務不履行を理由に契約解除の意思表示をした。

また、同時点でYは、本件ビルの建築につき、法令上所定の

設計図書(図面)の作成や建築確認手続(出来高等報酬相当額計八〇〇万円)及びZの下請工事分(出来高報酬相当額四〇〇〇万円)のほか、屋根・壁面工事等(出来高報酬相当額一二〇〇万円)を施工していた。これらの出来形部分は、Y・Zによって全工事の六割が完了していたことになる。

そこで、Xは、あらかじめW(建築業者)との間で、上記設計図書(図面)やY・Zが施工した出来形部分をそのまま利用して、平成二十六年八月一日、請負代金五五〇〇万円で、建築工事請負契約を締結した。Wは、同契約に基づき、内装工事を含む残工事の続行を図り、同年十二月一日までに本件ビルを完成して引渡しを行い、Xからその代金五五〇〇万円を受領した。

その後、平成二十七年二月一日、Zが施工した躯体工事の鉄筋コンクリートに係る配筋工事の一部につき、使用された鉄筋量がZの過失により上記設計図面の定めより少量のため、構造上強度不足で基本的な安全性を損なう瑕疵のあることが判明した。この瑕疵修補には、五〇〇万円の費用を要する。一方で、上記Y・Zの施工に係る出来形部分の出来高清算も未了のままである。

以上の事実で、民法上の法律関係として、Z(下請業者)がX(注文者)に対し、下請工事残代金(残報酬)の回収のため、直接にその支払を請求することができるか、これに対し、Xは、ど

のような反論が考えられるか。

討論会は三人一組で八組が出場し、各チーム一人の立論者が十分以内の論旨を発表し、他の二人が他の出場チームや傍聴者の質疑に対して五分間で応答する方法で行われた。

討論に先立ち、日本大学法学会会長の代わりに、日本大学法学部法学研究所長・日本大学法学部司法科研究室運営委員長である関正晴教授の挨拶、並びに日本大学法曹会会長鈴木三郎弁護士との挨拶があり、続いて進行の能登豊和弁護士から発表の手順と審査基準(論旨内容六十点、発表態度十点、質疑応答内容・態度三十点)等の説明がなされたあと討論会が開始された。

討論終了後、審査員を代表して大塚康貴弁護士から審査結果が発表されたのに続き表彰式が行われ、法曹会、法学部校友会から優勝チームに法曹杯・法学部校友会杯、法曹会から優勝、準優勝、第三位の各チームに盾、並びに法学部校友会から副賞として図書カードが授与された。また、法学部校友会から出場者全員にメダル及び図書カード、優秀質問者には法学部校友会から図書カードがそれぞれ授与された。また、来場者全員に法学部並びに法学部校友会からそれぞれ記念品を贈呈した。

なお、法律討論会終了後、ホテルメトロポリタンエドモントにおいて出場者・関係者全員による懇親会が開催された。

成績結果は、以下のとおりである。(括弧内は学科・学年)

(優 勝(第八組))

柴山 卓巳(法律・四年)・鈴木花奈美(法律・四年)

矢野 由夏(法律・四年)

(準優勝(第四組))

山本 大介(法律・三年)・櫻井 一毅(法律・三年)

八木孝太郎(法律・三年)

第三位(第一組)

渡辺 悠介(法律・三年)・鈴木 賢太(政治経済・三年)

齋藤 健太(公共政策・三年)

参加賞(順不同)

藤本恵美奈(法律・三年)・白井 和基(経営法・三年)

伊藤 礼佳(法律・三年)・阿部 隼也(政治経済・三年)

宇津木祐希(法律・二年)・中嶋 大(法律・二年)

松本 裕樹(法律・三年)・小堀 響平(法律・三年)

鈴木 貴宗(経営法・三年)・大谷 健太(経営法・三年)

津金 遼(法律・三年)・小林 識央(法律・三年)

小豆畑かおり(経営法・三年)・伊川 夏美(法律・三年)

佐巻 紗衣(法律・三年)

青塚 貴広(二〇一五卒業)・飯塚健太郎(法律・四年)

小島 恭世(法律・三年)・小林 識央(法律・三年)

櫻井 一毅(法律・三年)・柴山 卓巳(法律・四年)

鈴木花奈美(法律・四年)・山本 大介(法律・三年)

渡辺 結有(法律・四年)・渡 晴菜(法律・三年)

平成二十七年国家試験合格者

◆司法試験予備試験 一名

小山 彰弘(大学院法務研究科既修者コース三年在籍中)

◆司法書士試験 三名

竹内 義博(平成二十七・法律学科卒業)

高須 昭仁(平成二十六・法律学科卒業)

杉田 真友(平成二十二・政治経済学科卒業)

◆弁理士試験 三名

持田 大輝(大学院知的財産研究科一年在籍中)

折原 俊一(大学院知的財産研究科二年在籍中)

早坂 光紀(平成二十七・法律学科卒業)

◆税理士試験 八名

榎島めぐみ(平成二十六・大学院法学研究科修了)

佐藤 光(平成二十五・大学院法学研究科修了)

(優秀質問賞(五十音順))

時田 望(平成二十四・大学院法学研究科修了)
長橋 清太(平成二十三・大学院法学研究科修了)
石川 隆規(平成二十二・大学院法学研究科修了)
中山真之介(平成二十二・大学院法学研究科修了)
落合利佐子(大学院法学研究科前期課程二年在籍中)
堤 健二(大学院法学研究科前期課程二年在籍中)

◆公認会計士試験 五名

川畑 優太(平成二十七・法律学科卒業)
大野 男(平成二十五・法律学科卒業)
本宮 佳幸(平成二十三・法律学科卒業)
岡 健介(平成二十一・管理行政学科卒業)
加藤 寛啓(平成二十・管理行政学科卒業)